

横浜こどもスポーツ基金「第3回オリ・パラスポーツフェスティバル」報告

日 時	令和4年12月17日(土) 8:40~12:30
場 所	横浜国際プール
参加者 (うち障害児)	245 名 ( 8 名)
活動写真・内容など	<p>第3回オリ・パラスポーツフェスティバルを以下の通り実施しました。</p> <p><b>フライングディスク体験</b>  協力団体:かながわ障がい者フライングディスク協会  【主な活動内容】  ○障がい区分の無い競技(アキュラシー・ディスタンス&lt;座・立&gt;)であることを知る。  ○対指導者とキャッチandスロー ○アキュラシー(5m)の体験  ○下肢障がい者体験・視覚障がい者体験  ○指導者からの話と、元日本チャンピオンの方のディスタンススローを見る。</p> <p><b>ボッチャ体験</b>  協力団体:横浜ボッチャ協会  【主な活動内容】  ○ボッチャのルール、道具、選手について話を聞く。  ○「ランプ」の使い方、デモンストレーション  ○コートに分かれて練習  ○3対3のゲーム</p> <p><b>ブラインドサッカー体験</b>  協力団体:buen cambio yokohama(ブエンカンビオ)  【主な活動内容】  ○ブエンカンビオの選手の自己紹介とブラインドサッカーについての説明  ○アイマスクをして歩いたり走ったりする体験 ○コーン当て体験  ○選手によるドリブル・シュートのデモンストレーション  ○ブエンカンビオの選手からの話</p> <p><b>展示コーナー</b>  協力団体:横浜ラポール・横浜市障がい者スポーツ指導者協議会(愛称:バセル)  【主な内容】  ○パラサッカー、サウンドテーブルテニス、競技用車椅子の3つのコーナーを設置し、10分間交代で見学しました。  ○参加校が「総合的な学習の時間」にパラスポーツについて調べたことを展示発表するコーナーも設置しました。</p>
全体所感	<p>「総合的な学習の時間」で、オリ・パラ教育に関する実践をする学年・学級が増えてきています。ボッチャやブラインドサッカーなどのパラスポーツを導入で扱い、その後、学級でオリジナルのパラスポーツを考案したり、パラスポーツの魅力や楽しさを他学年の児童や地域に広めたりする活動をしている学級があります。このようにオリ・パラ教育の実践は市内に確実に広がりつつあります。教員が、児童の体験の場や時間の設定だけで終わるのではなく、共生社会の実現に向けて、その体験を通してどのように児童の学びにつなげていくのか考えることが大切だと思います。そのためには教員が、共生社会の実現に向けて意識を高くもち、いろいろな方々と思いを共有し、社会の中で児童を育てていくという視点をもつことも必要です。大人も子どもも、その垣根を取り払い、一人ひとりが共生社会の一員であることを自覚し、互いの思いを共有しながら、そしていろいろな人との関わりを大切にしながらオリ・パラ教育を推進していきたいと考えます。</p>



主催:横浜市立小学校体育研究会

後援:横浜市教育委員会 横浜市民局 横浜市立小学校長会 横浜市小学校教育研究会  
横浜市安全教育振興会 横浜市PTA連絡協議会 横浜市リハビリテーション事業団